

「父のことば」

竹田市立直入中学校 3 年 多田 陽葵

夕食の時テレビを見てみると、「保護司殺害」というニュースが目に入ってきました。保護監察を受けていた人が、保護司を殺害したというのです。私は、父に話を聞くことにしました。

私の父は保護司をしています。でもそれは父の職業としての仕事ではないので、私はそれまであまり興味を持ったことがなく、話を聞いたこともありませんでした。ニュースを聞いて、「そういえばお父さんも保護司だったなあ。」と思い出す程度でした。そこで今回「保護司」とはどんなことをするのか詳しく聞いてみることにしました。

父が言うには、「保護司の活動は二つの意味がある。」ということです。一つめの活動の意味は「犯罪や非行をした人の立ち直りを助ける」とのことです。しかし、父はまだ地域でこの活動をしたことは一回もないそうです。罪を犯した人がいないということは、ある意味良いことだと思います。でもこの先、直入町で新しくやり直したいと思う人が移り住んでくるかもしれません。直入町はのどかで、人も優しく、いい町だと思うからです。そんな町であったとしても、知っている人が誰もいないところで新しい生活を始めるのは心細いと思います。悩みや困りごとを相談する人がいなかったり、生活が安定しなかったりすると、また犯罪に手を染める人がいるかもしれません。そう考えると、相談役である保護司の仕事は、とても重要なものだということがわかりました。そんな時は、保護司をぜひ頼ってほしいと思いました。

父の話を聞いているうちに、私はますます保護司のことに興味がわいてきて、「二つめの活動の意味は？」と聞いてみました。

「二つ目の意味はね、地域の人たちに立ち直りについての理解と協力を求め、安全安心な地域づくりを行うための活動なんだよ。ちょっと難しいかな。」

と言いました。私は最初、よく意味が分かりませんでした。立ち直りを支えるには保護司がいれば大丈夫ではないかと思ったからです。なぜ、地域の人たちに理解と協力を求める必要があるのだろうと不思議に思いました。すると父が、続けてこう話してくれました。

「保護司のような立場の人が、地域の事情に通じていることはとても大切なことなんだ。罪を犯してしまった人と同じ目線に立って、親身に接しながら立ち直りを支えることが一番大切なことかもしれないね。」

と。

地域の事情に通じるということは、どんな人がどこに住んでいるとか、どんな仕事をしているとかをよく知っていることだと思います。そういえば、私の父は知り合いが多く、顔が広いです。そのことと、地域の方に理解と協力を求めることがどう結びつくのだろう

と考えてみました。立ち直ろうと思っている人が安定した生活をするためには、住むところと仕事が必要です。過去に罪を犯した人を雇ってもらったり、家を貸してもらったりするのは、保護司だけで解決できる問題ではありません。たくさんの人の理解と協力が必要です。仕事や家を紹介する保護司と、地域の人との信頼関係がなければとても難しいことだと気づき、私ははっとしました。だから父は、地域の人と積極的にかかわり、地域の行事などにも真剣に取り組んでいるのだとわかったからです。私は、保護司の仕事を真剣に考えている父に、

「お父さんかっこいいね。」

と思わず言いました。父は、私のその言葉を聞いて、

「最近、今が良ければ、自分が良ければ、お金がもうかればいいと考える人が多いように思うんだよ。自分はそんな人になりたくない。陽葵も、人のために何かできる人にならなさい。」

と言ってくれました。「人のために何かできる人」これは小さい頃から父によく言われていたことばです。このことばが、この時改めて、私の心に響いてきました。

私は一人でいるよりも、人と話したり、誰かと一緒に何かをしたりすることが好きです。みんなと一緒にいて、寂しそうな表情や、つらそうな様子をしている人がいると気になってすぐ声をかけます。先生から何か頼まれたら面倒がらずにできるし、友達が何かをしていたら、「手伝っちゃん。」とすぐ行動に移せます。これも、父のことばのおかげかなと思いました。

だから私はこれからも、小さなことから大きなことまで、人のためにできることをどんどん見つけて、行動できる人になりたいと思っています。……父のように。